

2019年度 札幌市立大学大学院 連携プロジェクト演習 公開成果発表会プログラム

2019年12月7日（土）14：00～15：30  
 桑園キャンパス4階 中講義室（D401）

1 開会 14:00

2 グループの成果発表

予定時刻	テーマ/発表概要		グループ構成員
14:05 ～ 14:35	【テーマ】	「理想の病院」を考える -フォーカスグループインタビューを通して-	デザイン研究科博士前期課程1年 張藝馨、濱本豊、馬勃洋  指導教員 喜多歳子教授、金秀敬講師
	【発表概要】	本研究は、大学生や院生、留学生、地域住民といった、属性の違う対象が考える「理想の病院」とは何かについて明らかにし、魅力ある病院づくりの一助となることを目的に行った。3～4人のグループを対象にフォーカスグループインタビューを行い、得られた多数の理想の病院像を安心、信頼など関連性の高い語句を用いてマッピング、また、ヒト・モノ・コトで3軸図を作り、それぞれの図同士を比較し、考察を行った。結果、施設などのモノに関する提案より、ヒトやシステムなど目に見えないサービスや距離感などについての提案が多く挙げられた。また、回答者の属性によっても回答にばらつきが見られた。	
14:40 ～ 15:10	【テーマ】	理想の病院を考える -おちつく待合室-	看護学研究科博士前期課程1年 久々湊富美子
	【発表概要】	令和となり相次ぐ自然災害による被災地の復旧・復興問題、少子高齢社会、消費税10%増税など、日本国民の生活の不安は大きいといえる。本プロジェクトでは、これらの国民の生活不安を札幌市民のニーズに掘り下げて捉え、理想の病院を考えることとした。札幌市民のニーズを把握するために札幌市民意識調査を利用し、札幌市民が医療・福祉・環境のニーズを多く持っていることを明らかとした。これらの調査を踏まえ、さらに病院・診療所・受診患者数調査・札幌保健所の市民意識調査を参考に、札幌東区内の診療所でフィールド調査から、いろいろな年齢層・いろいろな症状・いろいろなニーズなど「いろ」にこだわり、基本となる色の設定をし、訪れるいろいろな人に共通する靴箱・椅子・プレイスペース・カーテンに焦点をあて理想の病院待合室を提案した。	デザイン研究科博士前期課程1年 周唯、劉可心  指導教員 伊東健太郎講師、大島卓講師

(プレゼン20分+質疑応答10分=30分間)

3 講評 15:10～15:20 看護学研究科長 樋之津 淳子

4 閉会 15:20